

倶多楽の火山活動解説資料（平成24年6月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①、図2～3）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上概ね50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

23日に実施した現地調査では、大正地獄は満水状態で少量の熱水流出が続いていました。2007年以降泥混じりの熱湯の噴出が時々発生していますが、この現象は局所的なものであり、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-②）

今期間発生した火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図1-③）

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

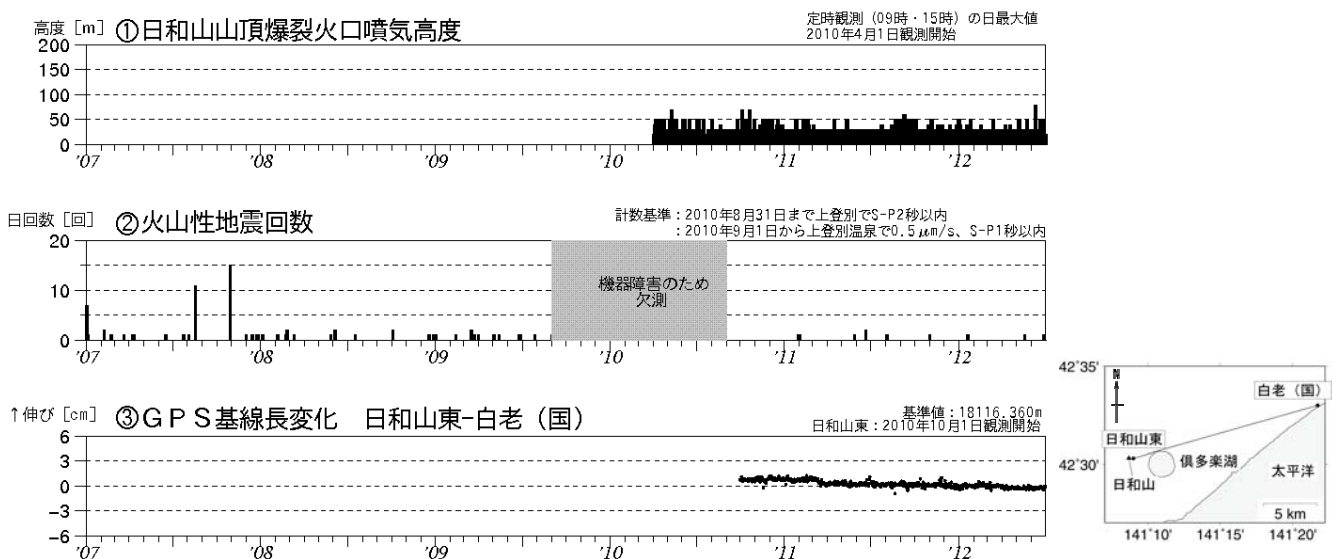


図1※ 倶多楽 火山活動経過図（2007年1月～2012年6月）、GPS連続観測点配置図

- ・ ③のGPS基線は右図に対応しています
- ・ （国）：国土地理院

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

※資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。

次の火山活動解説資料（平成24年7月分）は平成24年8月7日に発表する予定です。



図 2 倶多楽 日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
（6月15日、414m山遠望カメラによる）



図 3 倶多楽 大正地獄の状況

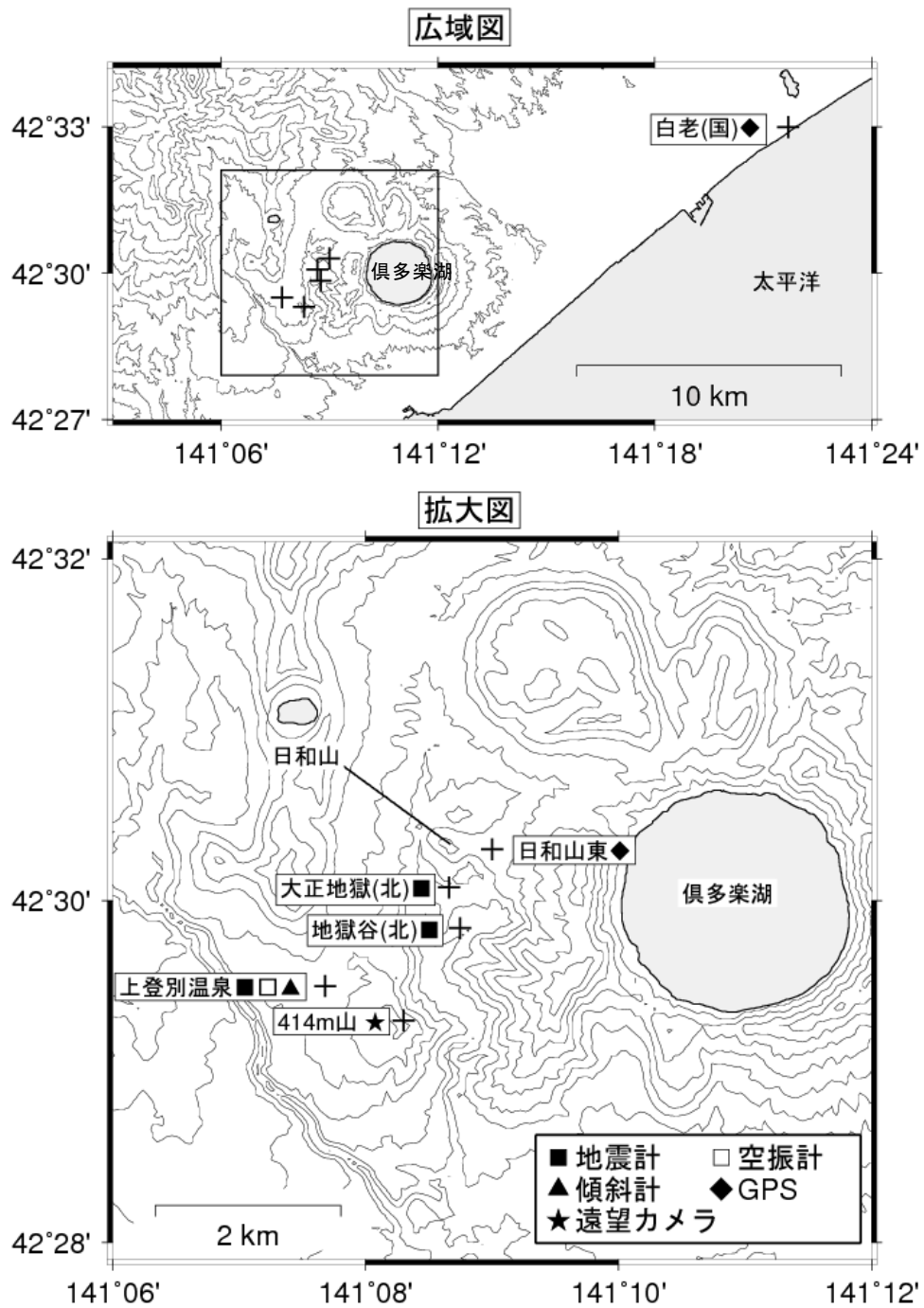


図4 倶多楽 観測点配置図

広域図内の口は拡大図の範囲を示します

＋は観測点の位置を示します

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学